

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 26 年度

事業所番号	2790800110		
法人名	有限会社 なでしこ		
事業所名	グループホームなでしこの家		
所在地	大阪市東住吉区中野2-5-11		
自己評価作成日	平成 26年 11月 1日	評価結果市町村受理日	平成 26年 12月 22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念である、「地域に密着し、みんなでいきいきと楽しく暮らしていきまます」を念頭に、3ユニットで各ユニットの特色があり、入居者に個別対応が出来ている。職員はフロア固定とし、馴染みの関係を構築している。近隣は住宅街であるが、天気の良い日はほぼ毎日散歩に出かけたり、定期的に近隣のスーパーに買い物に出かけ地域密着を根ざしている。残存能力を生かし自立支援に努めている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2790800110-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2790800110-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 26年 11月 27日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

在宅サービス、介護付き有料老人ホーム、高齢者マンション等を運営する「有限会社なでしこ」が運営するグループホームです。当ホームは純和風の造りで、植栽豊かな環境造りをしています。自治会長の尽力もあり、利用者は地域の夏祭りや盆踊り、カラオケ大会、餅つき大会、小学校での敬老会等に参加しています。また、地域ボランティアの協力を得て、歌体操・音楽会・歌謡ショー・民謡・新舞踊観賞等を楽しんでいます。職員は、ホーム周辺の散歩、買物、ごみ出し、草木への散水、犬の散歩等、利用者一人ひとりの希望に添った外出支援をしています。外出レクリエーションでは、植物園や市内観光地等に出かけ、観光と食を楽しむ取り組みをしています。また、自立支援として、極力オムツを使わない支援や歩行を重視して車イスに頼らない支援等に力を入れています。職員は室内犬を連れて入居している利用者を支え、ホームの愛犬としても大切に飼育しています。管理者や職員はやさしく熱心で、地域自治会や利用者家族との協力関係も良く、今後もさらにサービス向上が期待できるグループホームです。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念は職員ロッカーや事務所に掲示し、毎日の申し送りのあとに、全員で唱和している。	「地域に密着し、みんなでいきいきと楽しく暮らしていきます」を理念とし、運営の方針では「適切な介護技術を持って家庭的な環境と地域に根付いたサービスを提供する」として、職員は地域密着型サービスの意義をふまえた理念の実践に努めています。理念は職員詰所やロッカー等に掲示し、毎日の申し送り時にも唱和して職員間で共有しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時に近隣住民と挨拶を交わし、施設周りの清掃を行っている。買い物も近隣のスーパーに週2回は出かけている。また、地域の敬老会などに参加している。	地域自治会長の尽力もあり、地域の夏祭りや盆踊り、地域会館でのカラオケ大会、近くの公園で行われる餅つき大会、小学校での敬老会等に参加しています。今年はお祭りのみこしがホーム玄関前を通り、利用者も楽しむことができました。地域のボランティアに依頼し、歌体操・音楽会・歌謡ショー・民謡・新舞踊観賞等の提供を受け、楽しい時間を過ごすことがあります。近隣の公園等を散歩する、近隣のスーパーに買い物に出かける際には、地域住民と挨拶を交わし、ホーム周辺の清掃を行う等、利用者が地域の一員として馴染めるよう努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	散歩時や買い物時に、近隣の方に挨拶をし、少しずつ理解をえる努力をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p><b>○運営推進会議を活かした取り組み</b>            運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>地域自治会長からの祭事などの情報、地域包括支援センターからの情報を頂き、利用者・職員が参加するようにしている。また、ご家族様からの意見を頂戴しより良いケアに繋げている。</p>	<p>運営推進会議は2～3カ月に1回、概ね年6回の開催をしています。メンバー構成は、利用者・家族代表、地域連合町会長、地区町会長、地域包括支援センター職員、ホーム職員等です。最近の会議では、ホーム内の行事・利用者の生活状況・転倒事故・感染症予防の取り組み・自治会行事のお知らせ・地域包括支援センターからの情報提供等を議題として、討論しています。利用者家族からも積極的な意見が出され、提案や意見については、ホーム運営に活かしています。</p>	
5	4	<p><b>○市町村との連携</b>            市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>区のグループホーム・小規模多機能連絡に参加し、情報共有を行っている。また、施設見学や交流会にも参加している。</p>	<p>区の担当者とは、事故報告書等を提出する際にホームの状況について報告し、情報交換をしています。また、グループホーム・小規模多機能事業所連絡会に参加し、情報を共有しています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p><b>○身体拘束をしないケアの実践</b>            代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>早朝夜間は防犯の為、施錠しているが日中に関しては開錠をし抑制のないケアの実施に努めている。            入居者様への拘束に関しては安全面に配慮しながら拘束のないケアに努めている。</p>	<p>運営規程に「身体拘束の禁止」を明記し、身体拘束を行わないケアに取り組んでいます。転落事故を回避すべく低床ベッドを配置し、床にマットレスを設置する等、工夫をしています。利用者を車イスに座ったままにせず、食事の際はイスに移乗するなどの取り組みをしています。総合玄関やエレベーターは開錠していますが、各階のユニット玄関はランダムテンキーロックにより、施錠している状況です。</p>	<p>ユニット玄関の開錠については、今後職員間で話し合い、安全確保を行いながら開錠するよう取り組むことが求められます。</p>
7		<p><b>○虐待の防止の徹底</b>            管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>職員には入職時、全体会議等に注意喚起している。</p>		
8		<p><b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b>            管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>ご入居者様で成年後見制度を利用している方がおり、職員も後見人と話す機会を設けている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、契約書及び重要事項説明書を丁寧に説明し、ご質問等あれば随時対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関窓口に意見箱を設置している。年に1回ご家族様へ送り、要望や質問事項にご回答いただき、職員に指導、運営推進会議で意見を集約し反映するようにしている。	家族の意見や要望は、面会時にできるだけ聴くようにしています。利用者には、職員が日頃のかかわりの中から思いや要望を聞き取り、毎日のケアに活かしています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体会議で意見や提案を聞くようにしている。四か月に1回のヘルパー会議、随時フロア会議を開催している。必要に応じ、個人面談を行っている。	管理者は、日頃から職員の意見を聞き、その都度対応するよう心がけています。月1回の全体会議で意見を出し合い、提案を受けています。フロア会議やヘルパー会議で出された意見等を尊重し、職員間で合意を図った上で、ホーム運営に反映しています。また必要に応じて個別面談を行い、意見や要望を確認しています。	管理者は、職員の専門性を高め、知識の向上を図ることで、より一層のサービス向上を目指しています。具体的には、介護福祉士や認知症ケア専門士等の資格取得率を高めること、外部研修への参加を増やすこと、内部研修を充実すること等を当面の課題としています。今後、取り組みの成果が期待されます。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回考課表を作成し、代表者に提出している。個人面談も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	教員委員会を発足させ、接遇、感染予防、虐待、介護技術など年間の研修スケジュールを作成している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	東住吉区グループホーム・小規模多機能連絡会に参加し、事業所間での意見交換や施設見学会、交流会などで交流を図っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心感を与えコミュニケーションを図り、不安やご要望を少しずつ聴き、馴染みの関係づくりを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学対応時に、ご質問や不明な点を丁寧に説明を行っている。また、管理者不在時でも介護職員が施設の案内が出来る様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接時にご本人、ご家族が困っていることを確認し、初回のプランに反映している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者が出来る事を職員が奪わず、生活を共にすることで、馴染の関係づくりを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には必ず近況の報告を行っている。月に一度写真入りのお手紙を送付し様子の報告を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お手紙や年賀状を書いていただいたり、外線電話を取り次いだりしている。	書道が得意な利用者には、毎年友人や知人等、馴染みの方に年賀状を書いてもらうよう支援しています。共に暮らしてきた愛犬と一緒に入居した利用者もおり、職員の支援を受けて、今ではホームの中に自然に溶け込んで暮らしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り、入居者同士でお話ができる関係づくりをしている。リビングの席を調節している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設へ移動された際には、面会に行くようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話で希望や意向を拾い上げ、職員間で共有している。	職員は、日常会話の中から利用者一人ひとりの希望や意向を確認し、支援に活かしています。言葉で表現しにくい場合でも、時間をかけて聞き取り、表情やしぐさ、行動から意向を察知しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面接時に情報を聞き取り、フェースシートに記入している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	落ち着いた環境づくりを行い、入居者の変化について話し合い、臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>ご本人、ご家族の意向を確認した上で、カンファレンスを行い介護計画を作成している。</p>	<p>介護計画は、本人、家族の思いや意向をもとに作成し、日誌の記録としてモニタリング項目を組み込み、実施状況を把握しています。1ヵ月毎にモニタリング内容について話し合いを持ち、6ヵ月毎に見直しを行っています。利用者本人の希望等は、職員が日々の関わりの中で聞き取っていますが、一部実践に繋がっていない状況です。</p>	<p>管理者や職員は、利用者一人ひとりの思いを実現できるように、職員の都合を優先せず、利用者の得意なことを活かした日常生活支援を進める予定にしています。今後、取り組みの成果が期待されます。日誌のモニタリング項目欄に、本人とのコミュニケーション時に得た情報や、職員の気付き等を書き込み、支援に活かしてはいかがでしょうか。</p>
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個別にケア記録を作成して、職員間で共有し、介護計画の見直しに活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>外出、外泊、受診、訪問歯科、訪問眼科、訪問リハビリなどに応じている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>近隣のスーパーやドラッグストアでの買い物、近隣の和食店での食事会を行っている。また、地域の行事にも参加している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医師往診、訪問看護と、必要があれば外部への受診の付き添いを行っている。	利用者・家族の希望に添った医療機関で、適切な医療が受けられるように支援しています。内科提携医療機関が2カ所あり、利用者は希望する提携医師から月2回の往診を受けています。定期的に歯科衛生士の訪問を受けており、治療が必要な場合には、歯科医師の往診があります。眼科、精神科は利用者の必要に応じて、月1回の往診を受けています。また、必要時には通院支援を行い、結果は家族等に報告しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護時には様子の報告、特変あれば24時間対応のナースコールで報告している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者が入院した際は、入院時の付き添い、面会を行っている。病院の主治医のムンテラにもご家族の同意を得て参加し、医療ソーシャルワーカーとも連携を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>ご家族の意向を確認した上で、主治医、家族、施設が方針を共有し終末期の支援に当るようにしている。</p>	<p>入居時、利用者と家族に、事業所の重度化した場合の対応指針と緊急時の連携医について説明し、承諾を得ています。終末期支援については、利用者や家族の意向を随時確認しながら医師と連携を図り、利用者が安心し、納得した最期が迎えられよう取り組んでいます。事業所は、今年初めて看取りを経験しています。重度化や終末期の支援にあたり、職員の不安を解消するための分かりやすいマニュアルを制定しています。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>救急救命講習を全職員が受講している。事業所で緊急時マニュアルを作成している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設で避難訓練を定期的に行っている。運営推進会議で、協力の働きかけをしている。	防災マニュアルを整備しています。管理者は、外部で受けた防災に関する研修内容を職員会議で説明し、共有に努めています。職員は交代で、消防署の救急救命講習を受け、報告書を提出しています。避難訓練は、年2回定期的に行うことを定めています。今年4月に実施し、2回目の実施については現在計画中です。災害時に備え、飲料水や食料を備蓄していますが、利用者数に対し、準備量が少ない状況です。	今後、災害時に備えて飲料水や非常用食料品等については、利用者一人当たり2～3日分相当量を備蓄することが望まれます。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	必ず目線を合わせ、丁寧な声掛けをするように心がけている。	管理者と職員は、利用者の誇りやプライバシー確保の大切さを理解し、一人ひとりに丁寧な支援を心がけています。月間の目標に、『同じ目線で』を掲げ、最初の声かけには特に気を付けています。事業所では、新しい試みとして、『ユマニチュード(フランスで生み出された認知症のケア技法)』に取り組み、効果の検証をしています。	ホームでは今後もユマニチュードケア（見る・話しかける・触れる・立つ）を進め、定着させるよう取り組む予定です。今後、取り組みの成果が期待されます。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が何でも話せる環境をつくり、本人の意思や希望に基づいた自己決定をしてもらえるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩や買い物は、本人の希望で行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回訪問理容を実施している。入浴の着替えや、外出着を一緒に選ぶようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや、食器洗いを手伝ってもらったり、手作りおやつも定期的に行っている。	事業者から献立、食材の提供を受け、職員が調理しています。片付けや食器洗いに参加する利用者もいます。毎食のメニューをリビングの壁に掲示し、利用者に伝えています。職員は交代で検食し、業者に感想を伝え、内容の改善に努めています。毎日のおやつは、利用者の希望に応じたものを種類多く購入し、提供しています。月2回の手作りおやつの日や、時には握り寿司の日を設定し、利用者が食事やおやつを楽しめるよう、支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は毎日個別に記録している。低下がみられれば、医師に相談し対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っている。また、訪問歯科でも口腔ケア、必要であれば医師による治療も行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎回の排泄の記録をつけ、排泄パターンを把握している。オムツからリハビリパンツ、リハビリパンツから布パンツへと、取り組んでいる。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導等を行うことで失敗を減らし、利用者が気持ち良く排泄できるようにしています。また、おむつやリハビリパンツの使用を極力減らし、布パンツを使用するなど、排泄の自立支援に取り組んでいます。排泄が自立している利用者にも、それとなく下着の交換を勧めるなど、清潔が保てるように援助しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳の提供や、毎朝のラジオ体操の実施。散歩や歩行練習を行うなどの対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間にとらわれず、ゆったり入浴できるようにしている。	利用者の希望を尊重し、ゆっくり入浴できるように支援しています。希望があれば、予定外の日や日曜日にも入浴できますが、一人ひとりの入浴状況は週2回程度となっています。一部に入浴を好まれないという理由で、月1回程度の入浴状況が固定化している場合があります、健康管理上課題としている状況があります。	利用者が入浴を好まない理由を受け止め、どのようにしたら気持ちに添える入浴支援ができるのか、職員間の課題として取り組んでみてはいかがでしょうか。利用者の体調に問題がない場合、週3回程度の入浴支援が望まれます。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転を避け、日中の活動を多くしているが、体調によっては、居室で休んで頂くなど、個別に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各フロアーに薬剤情報をファイリングし、いつでも確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割として、食事の盛り付け、食器洗い、洗濯物干し・たたみ、植木の水やり、ゴミ捨て、献立記入など、個々に役割がある。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望に添えるように、買い物や散歩が出来る様に支援している。また、定期的に外出レクを実施している。	利用者の日常支援記録に外出の項を設けて、利用者の外出状況を分かりやすく記載しています。玄関を出て周辺を散歩する、スーパー等に買物に出かける、ごみ出しや草木に散水する、飼い犬の散歩に出かける等、利用者一人ひとりの希望に添った外出支援に取り組んでいます。日常支援以外にも外出レクリエーションとして、植物園や市内の観光地等に出かけ、観光と食を楽しむ支援をしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	立替にて対応し、希望時には買い物に同行している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	携帯電話を所持され、ご家族と連絡をとられている方や、手紙を出されたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着いた雰囲気をつくり、季節にちなんだものを作成し飾ったり、1日2回の温度、湿度を測定し居心地よい環境がつかれるよう努めている。	玄関やフロアは和風で落ち着いた雰囲気があり、周辺には緑の植栽を多くして安らげるようにしています。玄関には、利用者と共に活けた季節の花を飾り、食堂兼談話室には見やすいカレンダーや時計を配置して、季節や日時を分かりやすくしています。玄関の靴箱にも手すりを設け、利用者が外出しやすいように配慮しています。職員は、清掃と温度・湿度管理を適宜行うことで、居心地の良い環境づくりに努めています。	食堂兼談話室にソファ等を置き、利用者が好きな場所でくつろげるスペースを設けてはいかがでしょうか。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事席を2つにわけ、気の合う方が近くになるように配慮している。また居室で		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベットとタンスは備え付けであるが、使い慣れたタンスや小物入れ、テレビを持参され設置している。	大きなタンス、ベッド、洗面台が備え付けとなっています。利用者はテレビや小物入れ、写真、使い慣れた家具等を持参して使いやすく工夫しています。室内犬を連れて入居している利用者もおり、職員の協力のもと、ホームの愛犬としても大切にされています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	カンファレンス、ケアプランを通して、その方の「できること」を見極め、残存能力を活用するように心掛けている。		